

(様式)

平成30年度 津山市立河辺小学校 学校評価書

校長 山本 清人 印

1 自己評価

I 評価結果

項目	成果と課題（達成状況）	評定
落ち着いた学校（学級）づくりを目指し、生徒指導の充実に努める。	<ul style="list-style-type: none">落ち着いた学校づくりへの取組は少しずつではあるが成果をあげている。落ち着かない一部の学級では、未だきまりが守れない児童がいる。落ち着かない学級には、支援員を配置し複数で対応した。教職員と児童との信頼関係が構築できた学級では、児童の自己肯定感も高まり、きまり正しい学校生活を送ることができた。事故等の件数が、昨年度と比較し減っている。事故等の事後処理も適切にできている。「報連相」が機能している。ケース会議等で取組を検討し、組織として取り組んでいった結果、少しずつ成果をあげることができた。組織的な取組が十分機能しない場面もあった。	B
学力向上を目指し、教職員の授業力・指導力の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none">校内研究のテーマにしたがって、授業研究が充実できた。特に、ノートルダム清心女子大学 赤木准教授を講師に迎え、国語科の指導研究を深めることができた。1人1回の研究授業が、学級や学校の事情で実施できなかった。授業改革推進員の情報提供が効果的で、教職員の指導力向上につながった。児童の学力が少しずつではあるが向上してきた。ねらいをもって児童活動を行うことで、児童が主体的に活動しようとする意欲を持つことができた。より良い学校づくりに向け、高学年児童があいさつ運動など、積極的に取り組むことができた。	B
保護者、地域、関係機関と連携し、効果的な指導を展開するとともに、信頼される学校づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none">学校支援ボランティアを活用することで、児童の学習意欲が向上するなど、大きな効果をあげることができた。学校評議員会は、今年度は参観日に併せて計画的に実施することができた。評議員から、よりよい学校づくりに向けて様々なご助言をいただき、学校経営に生かしていった。学級懇談会だけでなく、学級だよりなどで学級の状況を発信した。落ち着かない児童に付いては、保護者への連絡を密にし協力を求めた。ホームページでの学校情報発信はできたが、学校課題については、なかなか発信することができなかった。	A
働き方改革を推進し、働きやすい職場づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none">最終体調時刻設定と留守番電話の導入により、超過勤務の軽減に努める意識が高まっている。年度後半から、職員打合せ会（終礼）を週3回に減らし、担任等の業務時間を確保するようにした。その結果、超過勤務の軽減につながっている。職場内で学年団、養護教諭、管理職などが窓口になり、悩み事等を相談しやすい雰囲気をつくった。あいさつを励行し、お互いが話しやすい職場になっている。	B

(A：目標を上回っている B：ほぼ目標どおり C：目標を下回っている)

II 分析・改善方策

- ・ 学校全体としては、落ち着いた学習環境になりつつあるが、一部学級では依然落ち着いていない。学校全体で更なる統一した取組が必要。
- ・ 教職員が深い児童理解のもとで指導することが大切である。そのため、職員研修の充実が求められる。
- ・ 「報連相」の徹底を図り、事故の未然防止のため、日頃から生活指導や安全点検の充実に努める。
- ・ ケース会議を定期的で開催し、組織的に対応しようと努めた。事例によっては、学校内だけでなく、関係機関を含めた拡大ケース会議を行う必要がある。
- ・ 岡山型学習指導のスタンダードを基本に、児童主体の学習のため、授業改善に努める。
- ・ 積極的に外部講師を招聘し、校内研修の充実を図る。
- ・ きょうだい学年の活動がより効果的に展開されるように、実施内容や実施方法を工夫していく。
- ・ 次年度も学習支援ボランティアを効果的に活用し、児童の学習意欲が向上するよう努める。
- ・ 学級懇談会、学校評議員会、いじめ問題対策委員会など、保護者や地域住民と連携しながら教育に当たる。
- ・ ホームページや学校便り、学級だよりを活用して、学校情報を積極的に配信していく。
- ・ 最終退校時刻を午後7時30分に早めるなど、より一層、働き方改革に努める。
- ・ 学校行事を精選する。
- ・ 働きやすい職場づくりのため、今後も職員同士が話しやすい雰囲気をつくっていく。

2 学校関係者評価委員会

國定 義信（学識経験者） 森 良美（主任児童委員） 西村 始（河辺公民館長）
垂井 敏郎（河辺小PTA会長） 前原 好重（河辺小PTA副会長）

3 学校関係者評価

- ・ 授業の様子を見て回ったが、どの学級も静かに学習できていた。以前と比較すると、少しずつではあるが、学校が落ち着いてきているのではないかと思う。
- ・ 学級によっては、児童の発表の声小さかった。みんなによく聞こえるような声で発表できる学級づくりを目指してもらいたい。
- ・ 不登校傾向の児童が、不登校に陥らないよう、学校は保護者と共に取組を進めてほしい。
- ・ 大きなケガや事故が減っていることは、その点ではよい評価をしてよいと思う。
- ・ 道徳が教科化された。道徳の教科書の内容は素晴らしい。是非、学校は、子どもたちにしっかりと道徳的心情を育ててほしい。
- ・ 先生方の指導力向上が、子どもたちの学力向上につながる。
- ・ きょうだい学年の取組で、下級生を思いやる心を育てることは、とても良いと思う。これからも、田植えなど、きょうだい学年で行う取組を続けてほしい。
- ・ 学校と公民館活動の連携を今以上深めていくようにしてほしい。
- ・ 学校に地域安全マップが掲示してあった。この活動は、大切にしてほしい。
- ・ 学校のホームページは、あまり見ていなかった。でも、若い保護者には、パソコンだけでなくスマートフォンで見ることができるので、これからも学校情報を発信してもらいたい。
- ・ 最終退行時刻が、午後8時は、遅いと思う。午後7時とか7時半といった、もっと早い時間を設定するのはどうか。
- ・ 留守番電話の導入で、先生方の勤務が少しでも緩和されるのであれば、とてもよいと思う。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

- 1 最重点の取組は、落ち着いた学校づくりである。今年度の反省をもとに、学校がより組織的な取組を推進していくことが求められる。また、保護者や地域との連携だけでなく、保・幼・小・中の連携を強化したり、関係機関との連携を効果的に進めたりすることも大切だと考える。今年度と同様に、対処的な指導だけでなく、積極的な生徒指導を進め、豊かな心を育てる教育を行いたい。
- 2 落ち着いた学校づくりと併せて、学力向上を進めなければならない。そのためには、基礎・基本の定着を図る取組や、教職員の指導力を高める取組を今後も工夫したい。